

通級指導教室 自立活動学習指導案

自閉症・情緒障害通級指導教室（あけぼの教室）

4人（3年男子4人）

指導者 T1 佐藤 貴美子 T2 池水 晃

1 活動名 話し合ってつくり上げよう ～あけぼのオリンピック～

2 活動の目標

(1) 全体目標

- 友達の考えを受け止めたり自分の考えを伝えたりしながら、考えを一つにまとめることができる。

【コミュニケーション】

- 友達との関わりを通して、自分のよさや頑張りに気づき、自分に自信をもつことができる。【心理的な安定】

(2) 個人目標

A児	○ 理由を確かめ合いながら、考えをまとめることができる。 ○ 話し合い活動の中で、自分のよさや頑張りに気付くことができる。
B児	○ 理由を付けて自分の考えを伝えたり、言葉でやりとりをしたりすることができる。 ○ 話し合ったり種目を試したりする中で、自分の頑張ったことに気付くことができる。
C児	○ 相手を見て話を最後まで聞いたり、理由を付けて自分の考えを伝えたりすることができる。 ○ 協力して活動する中で、自分の頑張ったことやできるようになったことに気付くことができる。
D児	○ 相手の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。 ○ 友達と協力して活動する中で、自分のよさや頑張りに気付くことができる。

3 活動で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

表現力	「話し合いポイント」（「理由を付けて話す」、「最後まで聞く」、「確かめてまとめる」）に気を付けて、自分の考えを伝える力
協働力	多様な考えがある中で、考えや理由を記入した「どっちボード」を基に話し合い、みんなで一つのことをつくり上げていこうとする力

4 活動について

(1) 活動設定の理由

4人の子供は、これまで相手を見て聞こえる声の大きさを話したり、静かに聞いたりするという基本的な話し方や聞き方について学習してきている。また、考えが分かれたときは「ゆずる」や「じゃんけん」等の手段を使うことで、考えを一つにまとめる経験を重ねてきている。しかし、友達との関わりの中で、自分の思いを一方向的に話したり、興味がないと話を最後まで聞かなかったりすることがある。また、みんなで考えをまとめるときに、理由について深く考えていなかったり、考えていても分かりやすく伝えることが難しかったりする姿も見られる。そのため、考えを伝えないまま我慢したり、イライラして相手に不快な思いをさせたりすることがある。

そこで、活動の終末に「あけぼのオリンピック」を設定し、それに向けた計画や準備を進める中で、友達と関わる楽しさを十分に味わうことができるようにする。また、「話し合いポイント」に気を付けて話し合いをすることで、考えや理由を基に多様な考えを一つにまとめることができるようにする。また、互いのよさや頑張りを認め合う場を設けることで、考えを受け止めてもらった喜びを実感し、友達と楽しく活動できたという成功体験を積むことができるようにする。

指導に当たっては、まず、活動の導入で、自分たちが参加している運動会と様々な国の人々の参加するオリンピックをつなげることで、自分たちでも「あけぼのオリンピック」を開きたいという思いを高めることができるようにする。あけぼの教室の他の友達と「あけぼのオリンピック」をすることを子供に伝えることで、相手意識をもって話し合い、種目を決めることができるようにする。また、教師の役割演技の動画（VTR）を見ることで、「話し合いポイント」に気付くことができるようにする。次に、これらのポイントを意識して話し合いを行うことで、「話し合いポイント」のよさを実感しながら、活用できるようにする。また、段階的に話し合う人数や種目数を増やすことで、話し合う人数や内容が変わっても、「話し合いポイント」を活用すると考えをまとめられるという成功体験を重ねていくことができるようにする。考えを伝える際は、「どっちボード」を活用し、考えや理由を視覚化することで、自分の考えを整理し伝えることができるようにする。さらに、活動の終末では、あけぼの教室の他の友達と「あけぼのオリンピック」を行うことで、友達と協力することの楽しさやつくり上げた喜び、達成感を味わうことができるようにする。また、活動全体を通して、話し合いにおける互いのよさを認め合う場を設けることで、友達のよさを認めたり、考えを受け止めてもらった喜びを味わったりすることができるようにする。

このような学習を通して、子供はコミュニケーション力を高め、実生活でも積極的に人と関わろうとするのではないかと考える。また、在籍学級や家庭で、自分のよさや頑張りを認めてもらうことで、自己肯定感を高め、落ち着いて最後まで話し合いに参加することができるようになるかと考える。

(2) 子供の実態

自立活動における4人の実態は様々であるが、主に「コミュニケーション」、「心理的な安定」の2区分について以下のような実態が見られる。

	コミュニケーション	心理的な安定	他区分
A児	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を聞いて、内容を理解することはできるが、興味がなくなると、関係のない活動を始めてしまうことがある。 興味のある内容については、進んで質問したり、問われたことに対して詳しく話をしたりすることができるが、話が一方的になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容を事前に理解し見通しをもつことで、初めてのことへの不安を軽減することができる。 思い込みによって友達関係がうまくいかず、不安定になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の表情や雰囲気から、気持ちを理解することが難しく、トラブルになることがある。 <p>【人間関係の形成】</p>
B児	<ul style="list-style-type: none"> 相手を見て最後まで話を聞くことができるが、内容が理解できていないことがある。 理由を付けて話したり、相手の考えや理由を確認したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 援助を求めることが難しく、心理的に緊張したり不安になったりする状態が継続すると、集団参加が難しくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から言葉を掛けることは少ないが、相手の働きかけに応じることはできる。 <p>【人間関係の形成】</p>
C児	<ul style="list-style-type: none"> 短い話や興味のある話については、集中して聞いたり活動したりすることができる。 理由を付けずに、自分の思いや考えを一方的に伝え、相手に話の内容が十分に伝わらないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の行動を注意されたとき反発して気持ちが高ぶってしまい、気持ちを切り替えて、次の活動に取り組むことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自信をもって活動に取り組むことが難しい。 <p>【人間関係の形成】</p>
D児	<ul style="list-style-type: none"> 相手の思いや考えを最後まで聞かずに行動してしまうことがある。 自分から進んで話をするができるが、思ったことをそのまま口にしてしまい、相手に不快な思いをさせることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と比べ、読み書きに時間がかかることを自分自身の努力不足だと感じ、活動に消極的になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名表や漢字表を活用し、正しく読み書きすることができる。 <p>【環境の把握】</p>

5 指導に当たって

(1) 「自分のめあて」をもたせる教師の手立て

「つかむ・見通す」過程では、活動マップやこれまでの学習の写真を提示することで、学習の流れや内容を確認し、学習に見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。また、話し合い活動におけるこれまでの自分の課題や前時の学習を自己評価カードで振り返ることで、「自分のめあて」を明確にして活動に参加できるようにする。

(2) 「学び合い」を活性化する教師の手立て

「活動する」過程では、話し合いの視点（「ルールが分かりやすい」、「勝ち負けが分かりやすい」、「初めてする人も楽しめる」）を提示することで、相手意識をもって種目を考えることができるようにする。考えを伝える際は、考えや理由を記入した「どっちボード」を活用し、考えや理由を視覚化することで、自分の考えを整理し伝えることができるようにする。また、段階的に話し合う人数や種目数を増やすことで、話し合う人数や内容が変わっても、「話し合いポイント」を活用すると考えをまとめられるという成功体験を重ねていくことができるようにする。また、子供がうまく伝えることができないときには、教師がファシリテーターになり、安心して課題に取り組むことができるようにする。

(3) 学びを振り返り、学びを価値付ける教師の手立て

「振り返る」過程では、「話し合いポイント」に着目して振り返ったり、互いのよさを認め合ったりすることで、自分や友達の成果と課題を確認して、これからの学習や実生活に生かすようにする。また、本活動で学んだことを在籍学級の他教科や実生活の中でも生かせるようにする。例えば、国語科の「しりょうから分かる、小学生のこと」（光村図書 3年）において、相手の考えを最後まで聞いたり自分の考えに理由を付けて伝えたり、互いの発表のよかったところを認め合ったりすることで、「友達とやりとりができてよかった。」という自己肯定感を高めることができるようにする。

6 指導計画(総時数 8時間)

これまで習得した既得の知識	
①	相手を見て聞こえる声で話したり、静かに話を聞いたりすることで、互いの考えを伝え合う。
②	譲ったりじゃんけんをしたりして、考えを一つにまとめる。

過程	時間	指導のねらいと主な活動内容	知識の理解の質の高まり	本活動外での評価
つかむ・見通す(3)	1	「活動の計画を立てよう」 【指導のねらい】 あけぼのオリンピックのねらいとつくり上げるまでの見通しをもつことができる。 【活動内容】 オリンピックと運動会の共通点やつながりについて考える。	オリンピックは選手の頑張りを認めたり、選手同士仲よくなりする目標もあるんだね。運動会と似ているね。	交流学級 〈家庭生活〉 家族と手伝いについて話し合うことができたか。
	2	「話し合うときの大切なポイントを考えよう」 【指導のねらい】 考えを伝え合う場面と考えをまとめる場面を意識し、「話し合いポイント」(「理由を付けて話す」、「最後まで聞く」、「確かめてまとめる」)に気付くことができる。 【活動内容】 動画を見ながら気付いたことを発表し、「話し合いポイント」を決める。①②	自分たちで種目を考えて、あけぼの教室の他の友達ともやってみよう。どのようにしたらよいかね。 みんなで一つにまとめるには何に気を付けたらよいかね。	
	3	「話し合っ『あけぼのオリンピック』の種目やルールを決めよう」 【指導のねらい】 ○ 「話し合いポイント」に気を付けながら、相手の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。 ○ 話し合っ、種目を決め、みんなで楽しく活動することができる。 第1時 ペア種目を決める。(2人で1種目ずつ決める:教師と一緒に) 第2時 団体種目を決める。(4人で1種目を決める:教師と一緒に) 第3時 個人種目を決める。(4人だけで1種目を決める) 【活動内容】 ○ 「話し合いポイント」を確認する。 ○ 話し合っ、種目を一つに決める。 ・ 話し合っ種目を決める。①①② ・ 話し合っうまくいった点とそうでなかった点を振り返る。①①②	考えが見えるとよいかね。「どっちボード」に理由を書くよいかね。 これまでと同じ「話し合いポイント」を使うと、理由ははっきりして、考えをまとめることができるね。 初めてする人にとってもルールが分かりやすく、勝ち負けがはっきりしている種目がよいかね。それぞれの種目のよさや選んだ理由を書こう。	
活動する(4)	1	「『あけぼのオリンピック』の準備をしよう」 【指導のねらい】 あけぼのオリンピックのポスターを作って、友達を誘うことができる。 【活動内容】 ○ 話し合っポスターやルールブックの内容や分担を考え作成する。① ○ 製作途中のポスターを見て、改善点を話し合う。①②	考えに理由を付けて伝えたり、「これでいいか」と確かめたりすると、みんなが納得して、考えをまとめることができたね	在籍校 〈道徳〉 主人公の気持ちに理由を付けて発表したり、友達の考えを聞いたりすることができたか。
	1	「『あけぼのオリンピック』をひらこう」 【指導のねらい】 計画に沿って、協力して活動することができる。 【活動内容】 種目やルールを確認し、あけぼのオリンピックを行う。①②①②	「話し合いポイント」に気を付けると相手に分かりやすく伝えることができるね。	在籍校 〈学校生活〉 休み時間に、友達と遊びを決めて仲よく遊ぶことができたか。
振り返る(1)				

本活動で習得が期待される概念的な知識	
①	相手の考えを最後まで聞いたり、自分の考えに理由を付けて伝えたりすることができる。
②	相手の考えや理由を確かめながら、互いに納得できるように考えを一つにまとめることができる。

新たな学び	
国語科	「しりょうから分かる、小学生のこと」(光村図書 3年)
【指導のねらい】	相手の考えを最後まで聞いたり、自分の考えに理由を付けて伝えたりすることができる。

7 本 時(5/8)

(1) 目 標

「話し合いポイント」に気を付けながら、考えを一つにまとめることができる。

個人	A児	理由を確かめながら、考えを一つにまとめることができる。	C児	友達のことを最後まで聞いたり、理由を付けて選んだ種目を伝えたりすることができる。
目標	B児	理由を付けて自分の考えを伝えることができる。	D児	「どっちボード」を基に、理由を付けて自分の考えを伝えることができる。

(2) 展 開

教師の言葉掛け 予想される子供の反応 聞く、話す、見る、動く 学びを充実させるための活動 評価に関すること

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の手立て
つかむ・見通す (10)	<p>1 前時までの学習を振り返り、あけぼのオリンピックまでの見通しをもつ。見る</p> <p>2 「話し合いポイント」を確認する。 理由を付けて話す ・ 最後まで聞く ・ 確かめてまとめる</p> <p>3 本時のめあてを確認する。 (1) 本時のめあてを考える。 「だん体しゅ目」を決めるために、みんなで話し合おう。 (2) 「自分のめあて」を決める。</p>	<p>○ 「活動マップ」を提示することで、今までの学習を想起させると共に、「自分のめあて」や本時の学習課題を明確にすることができるようにする。</p> <p>○ 話し合う人数が2人から4人になることや経験したことのない2種目から1種目を決めることを確認させることで、課題を焦点化し、本時の学習に意欲的に取り組むことができるようにする。</p> <p>○ これまでの自分の課題を自己評価カードで振り返らせることで、「自分のめあて」を明確にし、活動に参加できるようにする。</p> <p>○ 「チャレンジタイム」で、経験したことのない種目(「わっかりレーゲーム」,「物送りゲーム」)を実際に行うことで見通しをもち、興味・関心をもてるようにする。</p> <p>○ 「チャレンジタイム」の場と話し合いの場を変えることで、気持ちを切り替え集中して話し合うことができるようにする。</p> <p>○ うまく伝えることができないときは、教師がファシリテーターになることで、安心して話し合いに取り組むことができるようにする。 (個に応じた具体的な手立て)</p>
活動する (22)	<p>4 話し合っ、種目を一つに決める。 (1) 話し合いの流れを確認する。 「チャレンジタイム」→各自で種目を選ぶ→全員で一つにまとめる (2) 話し合っ、種目を決める。動く 聞く 話す</p> <p>ぼくは、ルールが分かりやすいから、物送りゲームがよいな。〇〇君は、どうかな。</p> <p>その考えもよいね。でも、ぼくは、勝ち負けがすぐ分かるから、わっかりレーゲームがよいなあ。どう思う。</p> <p>この理由なら、みんな納得できたから、これに決めよう。よいですか。</p> <p>あけぼのオリンピックと一緒に参加する他の友達も楽しむことができそうだね。</p> <p>(3) 話し合っでうまくいった点とそうでなかった点を振り返る。 「ルールが分かりやすいからです」と理由を付けて、考えを伝えることができました。</p> <p>「どっちボード」に考えや理由を書くと、もっと分かりやすく伝えることができました。</p>	<p>A児 考えや理由を記入した「どっちボード」に注意を向け、相手や友達の考えを確認させることで、考えを整理できるようにする。</p> <p>B児 話型を活用させることで、自信をもって考えを伝えることができるようにする。</p> <p>C児 「自分のめあて」や「話し合いポイント」を確認させることで、話し手や周りの様子に注視でき、相手の話を最後まで聞くことができるようにする。</p> <p>D児 「どっちボード」に理由を書かせることで、理由を付けて自分の考えを伝えることができる。</p>
振り返る (13)	<p>「話し合いポイント」に気を付けて話し合ったり、理由を確認しながらまとめたりできると、みんなが納得できますね。</p> <p>5 本時の学習について、振り返る。聞く 話す</p> <p>「確かめながら、まとめていたね」と言われて、うれしかったです。考えや理由が書いてあると確かめやすく、納得することができました。次の種目を決めるときも、この方法を使いたいです。</p> <p>6 次時の学習について知る。</p>	<p>○ 「話し合いポイント」に気を付けて話し合いをさせることで、考えや理由を基に考えを一つにまとめることができるようにする。</p> <p>○ 視点(「ルールが分かりやすい」、「勝ち負けが分かりやすい」、「初めてする人も楽しめる」)を提示することで、相手意識をもって種目を考えることができるようにする。</p> <p>○ 考えを伝える際は、「どっちボード」を活用させることで、考えや理由を視覚化し、自分の考えを整理し伝えることができるようにする。</p> <p>◆ 「自分のめあて」を意識しながら、話し合い活動に取り組むことができたか。(評価カード・観察)</p> <p>◆ 「どっちボード」を活用し、それを基に話し合い、考えを一つにまとめることができたか。(協働力 観察・評価カード)</p>
		<p>○ 「自分のめあて」を自己評価カードで振り返ったり、話し合いのよさを相互に認め合ったりすることで、子供が本時の学習で身に付けた知識や技能を実感することができる。</p>

自分のめあて

学び合い

振り返り

